

2024 年度事業報告・決算書

特定非営利活動法人フレーム・ラボ

I. 2024 年度活動報告

1. 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 相談ラボ

《目的》

- ・発達障害のある本人と保護者・家族に対して相談支援を行い、問題の把握や解決に向けての方策を共に考え、必要に応じて、関係機関との連携を図る。

《実施状況》

- ・相談8件
- ・電話・LINE・メール等で相談対応を行った。
- ・障害のあるご本人から、県内で当事者が活動できる余暇支援の場所についての相談や、仕事の現状についての相談があり対応を行った。
- ・保護者からは、特性に関することや関わり方、進路についてなどの相談があった。

② ステップラボ(保護者向け)

《目的》

- ・発達障害の子を持つ保護者が、その特性を知り、生活のしやすさにつながる具体的な手立てを学ぶ。
- ・周囲の人や支援者に適切に伝えられる力を向上させる。
- ・困っていることを一緒に考え、解決策を講じることで保護者自身も前向きに生活ができるようになる。
- ・ニーズに合わせた個別セッションを行う。

《実施状況》

- ・コミュラボと併用の利用があった。
- ・子どもの現状について相談対応などを定期的に行った。
- ・生活の中での出来事について、保護者が家庭で対応できる具体的な手立ての提案や助言を行った。
- ・個々の状況に合わせて、制度や卒業後の進路など必要な情報提供を行った。

《成果》

○ 保護者からの感想

- ・困りごとを言語化することで考えていることの整理ができた。
- ・出来事に対して、見えない原因(本人の特性や環境)などを一緒に整理してもらうことで、客観的に見ることができるようになった。
- ・不安なときでも、状況を聞いてもらい、具体的な手立てを一緒に検討していくことで心が落ちつくと、全体的に安定してくる。そのことはとても大切なことだと感じた。

③茶話会(ラボティー)

《目的》 継続

- ・保護者・家族同士のコミュニティの場づくり
- ・保護者同士の共感的なサポートや地域資源についての情報交換等を行い、支え合うことで専門家とは違う効果をねらう。

《実施状況》

- ・5月、7月、9月、11月、1月、2月、3月(年7回)平日午前開催
- ・オンラインツールも活用し、ハイブリッドで開催した。
- ・1月～3月は「働くこと」「お金のこと」「住まいと親亡き後」をテーマにラボティー＆プチ勉強会を企画し実施した。
- ・参加人数 23名(合計)

《成果》

- ・小学生のお子さんを持つ保護者からは、中高生や成人の保護者からそれぞれの生活の様子について聞くことができ、参考になったとの感想があった。
- ・参加者が少ない日もあったが、参加者からは落ち着いてゆっくり話ができてよかったという声があった。
- ・プチ勉強会はお子さんの年齢層は広がったが、個々の年代での気付きがあり、勉強になったとの感想が多かった。
- ・勉強会后、利用できる制度について申請を行ったり、将来に向けて手帳の取得や新しいサービスの利用を開始したりしたなどの報告があった。
- ・参加者が通常回より多かった。
- ・参加できなかった方から、内容について知りたいという声が数件有り、関心の高さを感じることができた。テーマを設けた開催は今後も検討したい。

④コミュラボ

《目的》

- ・安心して活動できる場で、将来に向けて必要な生活スキルを身につける。
- ・信頼できる大人との関わりを通して、自己理解を深め、困りごとを相談し、解決するプロセスを学ぶ。
- ・本人の気持ちや悩みを知り、保護者と共有し、対応する。
- ・保護者との情報共有を丁寧に行い、本人の発達や成長、それを支える家族に寄り添う支援を行う。
- ・将来的なコミュニケーションのあり方の一つとして、ICT 機器やオンラインの活用法を学ぶ。

《実施状況》

- ・登録者数 11名 (うち親子ラボ2組)

- ・小学生以上を対象に実施した。
- ・適応行動尺度(Vineland-Ⅱ)によるアセスメントや病院等で行うフォーマルアセスメント、本人や家族の希望をふまえ個別支援計画を作成し、プログラムの立案を行った。
- ・状態像に合わせたプログラムを設定し、調理、ゲーム、買い物、食事、移動支援、自立課題など生活に関する活動や、対人・コミュニケーションに関する活動などを実施した。
- ・相談も多く、内容は趣味のこと、家族のこと、学習や進路に関すること、睡眠や体調のこと、人との関わり方、ICT 機器や SNS の使い方など多岐にわたり、個別性が高いものとなっている。
- ・福祉サービス等を利用している場合は、相談支援事業所と情報共有を行い、必要に応じて会議等にも参加し、連携を図った。
- ・保護者との振り返りではセッション内容や本人の状況の共有を行った。
- ・保護者が来所できない場合は、メールや LINE 等を活用した活動報告や、オンラインでの振り返り面談などを行った。
- ・親子ラボでは、本人、保護者それぞれ個別担当制でセッションを実施した。

《成果》

- ・困り事を言語化できるようになり、深刻化する前に解決に向けて相談ができるようになっている。
- ・個別セッションとグループ活動を組み合わせたケースでは、個々の話を聞く機会と、同年代同士の余暇活動の機会を作ることができ、本人たちも安心と楽しみを得ることができたとのことだった。
- ・保護者からは、本人はあまり自分のことを話さないの何を考えているのか把握が難しかったが、テーマを決めて話す練習をしながら、本人が気になっていることなどを聞き取ってもらえるため、子どもの状況がよくわかるようになったとの話があった。
- ・家庭の中で気になっていたことと、セッションの中で本人の言動などから気づいてもらったことが一致し、一緒に対応方法を考えてもらうことができ安心したとの声もあった。

⑤放課後等デイサービス ポータルラボ

《目的》

- ・発達障害のある子どもに対してコミュニケーションや社会性、日常動作などの発達支援を行い、将来に向けて生活能力を向上させる。
- ・他者との関わりや活動の中で、経験を増やし積み重ねることによって、信頼関係を築き、相談スキルの向上につなげる。
- ・自己選択の機会を設け、自己肯定感を育む。
- ・本人の興味に合わせた余暇支援を実施する。
- ・保護者の子育ての悩みに対する相談を行う。

《実施状況》

- ・3月末現在 登録者数 26 名
- ・児童福祉法(放課後等デイサービスガイドライン)に基づいて運営を行った。
- ・法改正:5領域の視点をいれた支援プログラムと個別支援計画を作成の義務化への対応を行った。プログラムについてはホームページに公表した。
- ・職員研修は義務化されている研修(災害・感染症 BCP 研修、虐待防止・身体拘束適正化研修等)や、職員の資質向上のための研修(発達障害基礎研修、強度行動障害基礎研修、等)を年間 24 回行った。
- ・1日平均利用者数は 5.4 人で前年度比 0.8 人増となった。
- ・学校やアール、相談支援事業所からの紹介での問い合わせが増えた。
- ・活動の様子を Facebook 等で発信した。
- ・ポータルラボ通信(毎月)を発行した。
- ・家族相談支援の制度を活用し、保護者や家族(きょうだい児など)への相談対応を行った。
- ・年2回、保護者会を開催し、活動内容の報告や保護者同士の親睦の機会を設けた。
- ・処遇改善にかかる組織体制の強化および職員の資質向上のための研修を行った。
- ・円滑な業務遂行のため、記録の様式や業務の流れを整理し、効率化した。
- ・教育センター、学校、相談支援事業所等と連携し、不登校の利用者への対応を行った。

《成果と課題》

- ・事業所評価アンケートでは概ねできているとの評価をいただいた。
- ・小学生は同年代の集団参加の機会を増やし、見守りのもと相互に関わりコミュニケーションが増えた。
- ・中高生は個別の聞き取りを継続した結果、自己理解が進み、対人関係や自己管理に関する相談が増えた。社会関係図(エコマップ)などを用いながら説明を行い、解決に向けて一緒に考えることができた。
- ・業務の効率化を図る取り組みの結果、記録などの時間が大幅に短縮され、支援内容について話し合う時間が多く取れるようになった。
- ・保護者との連絡等を丁寧に行い、子どもの様子を把握しながら支援を行った結果、事故等もなく活動することができた。
- ・中高生は下校時刻や部活動などの関係から当日休みも多く、定期的な利用回数が減っている。
- ・問い合わせは増えているが、送迎希望の場合は利用に繋がらない。
- ・前年度より平均利用数は微増したが、目標値には遠いため、利用数増のための対策が必要。

⑥研究会(好きな趣味の活動、ゲーム、歓談など居場所支援)

《目的》

- ・障害者福祉制度で運用されていない、18 歳以上の余暇活動の場の提供。
- ・安心できる環境で、信頼できる同じ趣味の参加者と主体的に活動を行う。
- ・家族や学校、職場以外の人間との関わりを構築する。

《実施状況》

- ・毎週金曜日 18 時から開催した。(159 回実施)
- ・月ごとの参加費とし、登録制とした。
- ・対象は中学生以上とした。
- ・毎回、活動の前後に体調や気分、感想などをシートに記入してもらった。

《成果》

- ・共通の趣味で一緒に活動する機会が増え、楽しみにしているとの感想があった。
- ・生活サイクルのひとつに入り、余暇活動として気分転換をすることができている。
- ・メンバーが決まっていることで安心して参加している様子があった。
- ・近況報告の場にもなり、気になっていることを聞いて欲しいという希望も増え、対応を行っている。
- ・送迎の保護者同士の交流・情報交換の場にもなっている。
- ・毎週開催となり、来られない日があっても月の中で参加できる機会が増えてうれしいという声があった。

⑦イベント

●保護者・市民向けイベント

《目的》

- ・障害理解や福祉制度等を学ぶ機会を創出する。
- ・課題の要因や背景などを探り、適切な関わりや知識を知る。
- ・他機関連携など、地域資源について知る機会を持つ。

《実施状況》

- ・今年度は会場の環境を整えることができず、市民向けイベントの実施を見送った。
- ・ラボティー開催の機会に合わせて、保護者向けプチ勉強会を実施した。

Ⅱ. 組織運営

1. 会 員 正会員 24 名 賛助会員1名

2. 総会開催

(1) 通常総会 2024 年 5 月 31 日(金)10 時 30 分～11 時 30 分

審議事項 2023 年度事業報告および会計報告について
2024 年度事業計画および予算について
役員改選について

3. 理事会

- 第 39 回 2024 年5月 17 日(金) 総会開催の報告、その他
- 第 40 回 2024 年6月 22 日(土) 総会の報告その他
- 第 41 回 2024 年7月 12 日(金) 事務所環境及び指定寄付金の使途変更について
- 第 42 回 2024 年 11 月 15 日(金) 活動報告、後期および次年度の活動について
- 第 43 回 2025 年3月 14 日(金) 2025 年度事業計画および予算について
- 第 44 回 2025 年 5 月 16 日(金) 2024 年度事業報告および会計報告について

4. 情報収集、情報提供

《目的》

- ・発達支援および関連の情報について、会員・市民に提供する
- ・就労施設やグループホーム、地域等と情報交換を行い、連携・協働を目指す

《実施状況》

- ・会報誌を発行(年 4 回)
- ・Facebook などでの活動の報告や、LINE を活用して情報発信を行った。
- ・ホームページの更新を行った。

《成果》

- ・ホームページ等をきっかけとして問い合わせがあり、利用や相談につながるケースがあった。

5. ボランティア

- ・学生インターンシップの団体や学生ボランティアからの申し込みがあり、受け入れ体制を整えたが、先方の事情により、実施に至らなかった。